

建築文化賞

環境に配慮した建築物

魅力ある空間をもつ木造建築のモデル

木と住まいの情報館 モクイチ

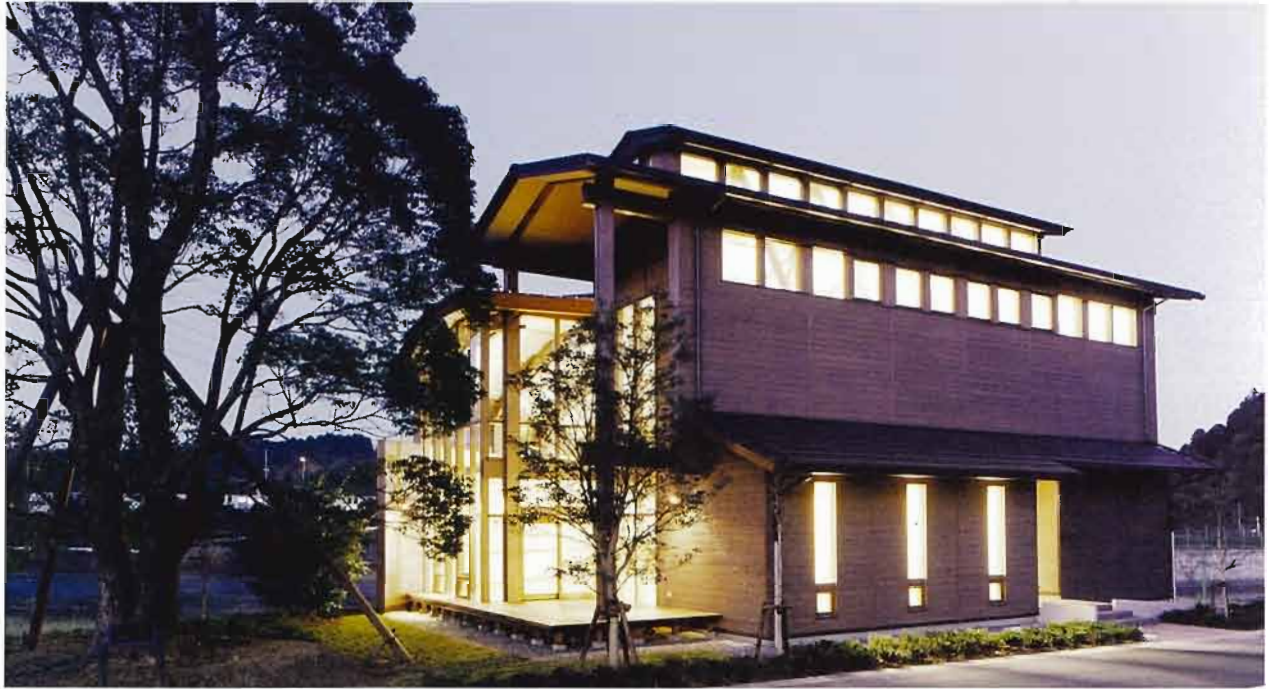
建築主：千葉県木材市場協同組合

設計：株式会社 アルセッド建築研究所

施工：古谷建設株式会社（共同企業体）

吉岡建設株式会社（共同企業体）

所在地：東金市山田800



▲南西側夕景 アプローチ側から建物全体をみる（撮影 中尾研二）

「日本的な当たり前の建物のつくりかたが、現代では難しいことになっています。」

木が一番：[モクイチ]のパンフレットの一文である。

地元の材料を使い、地元の大工が、地元の風土に合った建物をつくる、本当はこんな単純なことが、もっともエコロジーなことなのである。

[モクイチ]のある東金一帯は[山武杉]とよばれる美しい木肌の杉の産地でもある。地元の間人は吉野杉にだって負けないくらいに思っている。しかし、近年、その素材を生かした建築をそのあたりでみるのが少なくなった。

木と住まいの情報館[モクイチ]はその山武杉を架構に存分に使い、しかも金物をできるだけ使わず、木の材料としての資質をうまく利用した建築である。接合部に鉄板を用いた一般的な木造トラスでは組み立てや建て方はとびが行うが、従来の接合方法を用いた[モクイチ]ではすべてを棟梁が行う。材だけでなく、誰が作るかということもここでは重要なテーマである。

ここで利用されている杉材は、木材の中でも軽いため、架構に適さないとされてきた。しかし、設計者の深い木構造への理解と手堅い手法によって、従来の木造の可能性を広げた。伸びやかでそれでいて昔の寺院の庫裏を思わせるような懐かしさを併せもつ建築になっている。

ここに込められた環境への配慮や価値観、そして木造の可能性を開く技術をどう多くの人たちの共有できる財産にしていけるのか、この建築はそうした問題提起と読み取ることもできる。

（篠原聡子）

シンボルツリーに面して▶
内外をつなぐ大開口部

▼木造トラスと貫構法の構成

